



ぼくは このごろ、がっこう 学校に 行いきたくありません。
 だって、おなじ にねんにくみ 二年二組の おおかわ 大川くんたちが、ぼくのことを
 「のろちび」「のろちび」といって、いじめるからです。

きょうの あさも、そうでした。ぼくが しょうがっこう 小学校に むかつて
ある 歩あるいていたときです。うしろから、おおかわ 大川くんの おお大きな
 こえがしました。



「のろちび！ のろちび！」

ぼくが ふりむくと、おおかわ大川くんと やまだ山田くんが
はしってきました。

「のろちびが、はやく ある歩いちゃ だめだぞ！」

おおかわ大川くんが、ぼくの ランドセルを、うしろに
ひっぱりました。

ぼくは、もう すこ少しで たおれそうになりました。



でも、そんなぼくをむしして、ふたりはたのしそうに
わらいながら、はしっていったのです。

ぼくは、学校が がっこう おやすみだといいなあと おもいました。

おひるやすみになると、 おおかわ 大川くんが、まえの せきから
こえを かけてきました。

「のろちび。オレらと、そとで オニごっこしようぜ。」

ぼくは きょうしつで、本を ほん よむつもりでした。でも、

おおかわ 大川くんに さからうと、なにをされるか わかりません。
しかたがないので、ついていきました。

